

○5番（帰山寿憲君） 5番、帰山です。平成23年、最終の定例会に当たり、以下の4点について伺いたします。

一つ、「耐震補強工事について」一つ、「緊急雇用創出臨時特例基金について」一つ、「ジオパークに関する観光施策について」一つ、「農林業施策について」以上の4項目について伺います。

最初に、「耐震補強工事について」、小・中学校の耐震化工事について伺います。

今議会にも、2小学校の耐震化工事と大規模改修の予算が計上されています。文部科学省の資料によりますと、当年4月1日において当市の耐震化率は72.3%であり、福井県の平均を若干下回る結果となっております。今回の2小学校の工事は、国の補助率優遇措置の延長を利用するものですが、勝山市建築物耐震改修促進計画では、平成27年に90%の達成を目指すこととなっております。現在までの進捗状況と今後のスケジュールを伺います。

次に、文部科学省は、当年7月15日付で、「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」の緊急提言を、各県知事及び各県教育委員会に送付しています。この中で、耐震化の推進、学校施設の防災機能の強化が提言されています。この提言を受けて、県内でも改修を前倒した市町もあるようです。当市として、この提言をどのようにとらえているのか、また耐震化計画の実施に影響があったのか、もしくは今後あるのか伺います。

また、今後行う耐震化工事をどのように実施するのか、つまり耐震化工事のみを行うのか、並行してエコ改修等も行うのか、大規模改修の内容とともに伺いたします。

さらに、2小学校の改修工事に際しては、どのような施工方法となるのでしょうか。以前、勝山南部中学校の改修工事の際には、仮設校舎を建てたものの、校舎が大変暑く不評だったと記憶しております。今回、空調や騒音にどのように対処するのかを伺います。

また、市役所の耐震化工事においては、並行してエレベーターを設置しましたが、今後、特別支援教室のあり方を考える上で小学校にも必要ではないでしょうか、あわせて伺います。

さきの緊急提言では、防災機能の強化もうたわれていますが、どのように対応するのか伺いたしたいと思います。

次に、「緊急雇用創出臨時特例基金について」伺います。

平成22年には、通常いわれる緊急雇用とふるさと雇用、それぞれ103人と20人の雇用があったようですが、現在の状況を伺います。また、現在までの成果、つまり雇用面からは正規雇用への進展状況、事業面から事業の成果または進捗があったか、またどのように評価したのかを伺います。

両方の制度とも今年度末で事業が終了する予定ですが、来年度以降、どのように対応するのでしょうか。来年度以降の補助制度の継続ないし展開について見込みはあるのか、あわせて伺いたしたいと思います。

3番目に、ジオパークに関する観光施策の今後の展開について伺います。

先般、勝山と同時期に日本ジオパークに認定された天草御所浦を視察する機会を得ました。同島は島であるがため、アクセスは必ず船を利用しなければならないという不利な条件を背負っています。このことは、船を使えば島のどこにでもアクセスできるメリットもあると言えますが、一般には交通機関が限定されるため、市が設定する誘客数の目標は1万人とされていました。

また、市町村合併により現地常駐者が学芸員1人のみであり、ほかはボランティアに依存している状況のようです。しかし、事業内容は、不利を逆手にとり工夫をしている面が多々見受けられました。例えば、島への入り口は通常御所浦港であり、出入り口が1カ所であるため、そこにジオパークの拠点と

観光のスタート地点を集中して設けていることや、島であるがゆえに全周360度のパノラマがあり、展望ができる地点へ少なくとも普通車では行けるようにコース設定がされていることなどです。したがって、現地に着いて、最初にジオパークの説明を聞くことが可能でした。そして、係員から注意を聞いた上で資料館でハンマーを借りると、島内の散策とともに比較的自由に島内の指定されたエリアでの化石発掘体験や観光が可能であり、ジオパークを体験として楽しむことができる状態でした。また、案内図によりどの地点からも観光が可能でした。

対して勝山では、恐竜水などによってPRは進みつつあるものの、ジオパークをどのように体験できるのか、どこから観光や体験ができるのか、非常に取りつきにくい状況ではないかと思えます。県外からの方がジオパークの観光を目的とする場合、市内に入り、最初にどこに行くべきか迷うばかりでなく、勝山駅や恐竜博物館に着いても、その後のコース設定ができないのではないのでしょうか。対応策を考えるべきではないかと思えますがいかがでしょうか。

恐竜博物館、スキージャムやゆめおーれ等の資源に恵まれているがゆえに連携をはかりつつありますが、集客依存ぎみとなり、ジオパークとしての魅力があいまいになって訴求が甘くなっているように感じられます。ジオパークを見学するのか、体験するのか、他と複合的に観光するのか目的はさまざまですが、顧客それぞれに満足していただくためにもコンセプトを明確化して提示すべきではないかと思えますが、今後の展開を伺います。

最後に、「農林業施策について」伺います。

本年度から農業者戸別所得補償制度が導入されました。現時点での評価は不明ですが、今後もさらに拡充が図られるようです。対して当市でも重要である農地・水保全管理支払交付金は、今年度までの事業となっています。そこで、同様に今年度が最終年となり、結果として当市が大きな影響を受けるような補助事業がないかを伺います。

さて、農業者戸別所得補償制度は拡充が叫ばれてはいますが、性質上、予算要求額は前年同額です。今後、拡充方針に伴う展開において、当市への影響はあるのかを伺います。

また、農地・水保全管理支払交付金は、当市において中山間地域等直接支払交付金とは目的を異とするものの、農地環境の維持管理に大きく貢献しています。農地の環境整備や勝山市の景観形成に大いに貢献しています。しかし、その目的とする農地の環境整備等については、農業用水の整備を初めとして、いまだ道半ばであります。また、地域が一体となり取り組むことによりコミュニティーの維持が図られるばかりでなく、農業構造の改善にも貢献しています。当市の当初予算においても相応の金額を占めていますが、来年度の継続見込みはあるのか、あればどのような内容となるのか伺います。

次に、森林・林業人材育成対策について伺います。

林業の人材育成に対する補助は、近年さまざまな形で行われてきていますが、実を結んでいる感がありません。確かに里山整備は多少進んでいるようですが、倒木除去等に見られるように、進展は際立っているとは言いがたい状況です。勝山市においては、林野面積では民間所有が8割あるものの、林業専業者はもはや数字化できない状況であり、整備のほとんどを補助事業等により森林組合に委託している状況です。とすれば、現在の状況は、その人材的な不足によるものか、事務処理等の多忙などにより事業が進まないためなのか、それとも別の理由があるのかと考えてしまいます。これまでの内容と経過、実績を伺います。

また、平成25年度より森林フォレスター認定制度が開始され、本年度はその準備期間ともなるよう

ですが、どのような制度かを伺います。同時に、来年度より森林施業プランナーの育成も進められるようですが、当市として両制度に対する取り組みはあるか伺います。

以上、4項目についてお伺いいたします。

○議長（松村治門君） 山岸市長。

（市長 山岸正裕君 登壇）

○市長（山岸正裕君） 「ジオパークに関する観光施策について」お答えをいたします。

第5次勝山市総合計画では、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークの推進によるまちの活性化」を基本政策の一つとして掲げております。ジオサイトとして位置づけた地質・地形遺産を初め、エコミュージアムによって発掘された自然、歴史、産業遺産や伝統文化の保全保護を図り、市民が情報を共有・発信し、勝山市固有のジオツーリズムの展開により観光誘客や経済活性化を推進するとしております。

本年度におけるジオツアーの実施状況を申し上げますと、まず市主催のトライアルジオツアーには49名が参加し、コースの安全確認や新たなコース設定の検討などのモニタリングを実施しています。

夏休み期間中にスキージャム勝山が企画したジオツアーには、JR西日本主催のJR勝山ジオツアーに756人、JTB中部主催のJTB勝山ジオツアーに48人、そしてホテルハーベストジオパークツアー宿泊プランには876人がそれぞれ参加していると聞いており、これ以外にも大阪の民間旅行事業者による教育ジオツアーや、市内の民間事業者による恐竜渓谷ルートを活用した自転車ジオツアーなどが実施されています。

ジオパーク観光を目的として、勝山市を訪れた人たちに最初に情報提供をして、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク全体のコンセプトや見どころ、さらに周遊ルートなど、勝山市の貴重な地質・地形遺産や自然・歴史遺産を紹介し、案内するためのジオパークインフォメーション機能の設置については、福井県が進めている恐竜キッズランド構想との連携や勝山市の観光戦略全体の中でその位置づけを検討してまいりたいと考えております。周遊ルートの設定については、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク公式ホームページの中で、本年度作成をいたしました恐竜渓谷ルートガイドマップのような携帯型ガイドマップを公開し、来訪者に対して事前に情報発信を行ってまいります。

次に、アピール不足ではないかという御指摘がありましたが、勝山市の主要な観光施策である恐竜博物館、スキージャム勝山、ゆめおーれ勝山は、それぞれ恐竜、恐竜化石、芳野ヶ原の溶岩台地、多湿な気候風土がはぐくんだ羽二重織物といった視点から、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークを代表する主要な施設として位置づけられるものでありまして、それぞれの施設と連携し、ともにジオパークの推進をしてまいります。

今後は、ジオツーリズムのだいご味であります野外における露頭などの地質・地形遺産、自然遺産などの情報提供とともに、これまで以上に歴史・産業遺産など幅広い視点に立ったわかりやすい情報提供を図り、ジオパークの魅力を積極的にPRしてまいります。

最後に、ジオツーリズムのコンセプトを明確にすべきという御質問については、ジオツーリズムは露頭や博物館を見る、ガイドや地域の人たちから話を聞き、こずえを渡る風の音や水の流れる音に耳を傾けて大地や森の香りを楽しむ、また地球の営みによって生成した岩石に直接に触れて悠久の歴史を体感する、大地の恵みを受けて育った産物を食するなど五感で楽しむ観光であり、これが勝山ジオパークのコンセプトであります。したがって、このような見学や体験などを複合的に提供し、楽しく学べるような工夫をさらに凝らして、魅力が伝わり、だれでも参加できるように努めてまいります。

○議長（松村治門君） 蓬生教育総務課長。

（教育総務課長 蓬生慎治君 登壇）

○教育総務課長（蓬生慎治君） 「耐震補強工事について」お答えします。

勝山市内には47棟の小・中学校施設があり、耐震性がある昭和56年以前の建築が13棟、昭和56年以降の建築が12棟で、残り22棟について耐震補強工事を進めてまいりました。平成23年4月1日までに9棟の耐震工事が完了し、耐震化率72.3%でしたが、ことし8月に平泉寺小学校体育館と荒土小学校体育館の耐震工事が完了しましたので、現在76.6%となりました。

今後、23年度では成器南小学校南校舎、成器西小学校南校舎、25年度に成器南小学校北校舎、成器西小学校北校舎の2棟、26年度、27年度に残る平泉寺小学校、村岡小学校、三室小学校、鹿谷小学校、荒土小学校の五つの小学校の校舎7棟の補強工事を計画しております。

次に、文部科学省の「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」の緊急提言では、一つ目として、学校施設の安全性の確保に関して、耐震化の推進や非構造部材の耐震化、二つ目として、地域の拠点としての学校施設の機能の確保に関して学校施設の防災機能の向上が提言されております。この提言を受けまして、勝山市としても耐震化の推進については積極的に取り組む方針であり、国の補正予算にも対応しながら計画的、積極的に進めてまいりたいと考えております。さらに、非構造部材の耐震化についても取り組んでいく予定でございます。

学校施設の防災機能の向上に関しては、地域防災計画に基づき、市内全12小・中学校の体育館が避難施設として指定されておりますが、災害時には校舎も避難所となることより、この緊急提言を考慮し、学校施設の安全性の確保等に取り組んでまいります。学校施設の防災機能向上に活用できる補助事業につきましても、文部科学省以外にも内閣府、消防庁、国土交通省にもありますことより、防災担当部局等との連携を図り、防災機能向上に取り組んでいきたいと考えております。

また、今後行う耐震補強工事にあわせ、老朽化が進んでいる施設の大規模改造工事も施工していく予定です。成器南小学校、成器西小学校の工事内容につきましても、外壁塗装、フローリング等塗装のほか、複層ガラスなどのエコ改修工事、空調設備、トイレ改修等、国の補助対象事業として実施する予定であり、今後の工事におきましても老朽化の状況を考慮し、実施してまいりたいと考えております。工事施工中には、空調や騒音等に配慮するため、休日、夏休みの施工等、創意工夫と請負業者への指導に当たりたいと考えており、学校に対しても教室の移動などを検討してもらえよう協議しております。

次に、耐震工事にあわせてのエレベーターの設置についてですが、車いすなどを利用する児童生徒に対して、勝山中部中学校、成器西小学校、成器南小学校に車いす対応のリフトを設置して対応しております。今後、エレベーター設置の必要性について調査研究させていただきたいと思っております。

○議長（松村治門君） 宮永商工観光部長。

（商工観光部長 宮永節哉君 登壇）

○商工観光部長（宮永節哉君） 「緊急雇用創出臨時特例基金について」御答弁申し上げます。

まず、雇用状況についてでございますが、平成23年11月末現在、緊急雇用創出事業では27事業で、延べ91人を雇用しております。また、ふるさと雇用再生事業では、9事業で延べ20人を雇用しております。現在までの成果として、正規雇用での進展状況は、緊急雇用創出事業で1名、ふるさと雇用再生事業で3名が委託先において正規社員となっております。

次に、事業の成果または進捗はあったか、またどのような評価をしたのかの御質問につきましては、

大多数の事業において所期の目的が達成できた、または一定の成果が得られたと考えております。例えば、はたや記念館ゆめおれ勝山の展示及びイベント体験部門委託事業におきましては、ふるさと雇用による職員を6名配置したことによりまして、コースターづくりやクラフト等の体験部門及びミュージアムゾーンでの説明・案内部門が充実され、年間10万人を超える入館者の増大につながっております。

また、環境保全推進コーディネーター活動事業では、コーディネーターの前園泰徳氏によりまして、勝山市の自然環境や生態系の調査研究が進められ、子どもたちへの環境教育の推進にも大きく寄与しているところでございます。このほかの事業においても、目的に沿った効果を上げていると認識しております。大多数が計画のほぼ8割を終了しておりまして、各事業の担当課から、実施して大変よかったとの評価を受けております。来年度以降の対応についてでございますが、雇用終了予定者を対象とした奥越地区の就職セミナー及び合同企業説明会を11月14日に地場産センターで開催したところでございまして、来年2月にも続いて開催する予定でございます。

このふるさと雇用再生事業につきましては、平成23年度をもって予定どおり終了することになっておりますけれども、先ごろ平成23年度第3次補正予算が成立したことに伴いまして、緊急雇用創出事業につきましては3,510億円、これ全国規模でございますけれども拡充されまして、実施期間も延長されることになりました。ただ今回の予算が、御存じのとおり、主に東日本大震災の被災地での安定的な雇用創出及び現状の円高の長期化によります雇用への影響に対する対応ということを目的としておりますために、本県の配分額はかなり少ないというふう聞いております。

そこで、現在、県では県及び各市町でこの事業を引き続き展開するというところで、来年度事業の選定を行っておりまして、事業選定の結果につきましては、いましばらく時間を要するというところでございますが、当市としましても、観光、教育、農林業に関連した事業を現在要望しておりまして、採択事業につきましては今後とも積極的な活用を図ってまいりたいと考えております。以上です。

○議長（松村治門君） 親泊農林部長。

（農林部長 親泊安次君 登壇）

○農林部長（親泊安次君） 次に、「農林業施策について」のうち、まず農業分野についてお答えいたします。

今年度が最終年度となっている国の大きな補助事業については、議員が御指摘のとおり、農地・水保全管理支払交付金のうち共同活動支援事業が予定されておりましたが、国の平成24年度の概算要求では、集落を支える体制の強化や仕組みの簡素化及び単価の見直しなどを行った上で、平成24年度から平成28年度まで継続することとなっております。

また、鳥獣害対策関連の事業についても、一部が今年度までの予定でありましたが、要件等の見直しはあるものの、24年度概算要求として23年度と同規模の予算要求が行われているなど、現段階では施策の実施に大きな支障はないと考えております。

次に、農業者戸別所得補償制度の来年度の拡充については、地域農業のあるべき方向などを定める地域農業マスタープランを集落単位で作成していく支援が盛り込まれているようですが、この点以外では大きな内容の変更はないと見ております。

なお、いまだ動向が不明な県事業でも最終年度と予定されるものがあり、今後も予算編成過程の動きを注視してまいります。

次に、農林業施策のうち森林・林業人材育成対策についてお答えいたします。

まず、勝山市の対応とその実績については、福井県の森林施業士資格取得・育成研修事業実施要領に基づきまして、福井県森林整備支援センターによる技術研修と現場での習熟研修により、素材生産等に必要の技能・資格を持った優秀な技術者を森林施業士として長期的・計画的に育成することを目的として、勝山市在住の方を対象に支援してまいりました。平成15年度から平成22年度までの8年間の実績は、8名の方が当研修事業を活用され、そのうち5名の方が九頭竜森林組合において就業を継続されております。この九頭竜森林組合の奥越地域での活動状況としましては、新植や雪起こし、除間伐、枝打ちなどの森林整備が、22年度総実施面積として437ヘクタール、23年度は現在までのところ348ヘクタールとなっており、このほか、例えば、枯れ松の抜倒や作業道整備など、現在83名の職員で対応していると聞いております。

次に、フォレスターと森林施業プランナーについてお答えいたします。

森林・林業再生のためには、持続的な森林経営を実現した上で、その採算性を確保することが重要であることとし、国は広域的、長期的な視野を持って森林経営のビジョンを描き、中立的な立場で関係者を指導する役割を持つ者を日本型フォレスター、これは山林学の専門家という意味のようでございますけれども、として認定する制度を平成25年度から開始するとしております。それに向けた人材を育成するため、本年度から林業関係の福井県職員12名が准フォレスター研修を受講し、今後、市町に対して森林整備計画作成への支援をしていくことになるかと聞いております。

また、森林所有者に対し森林整備の内容、経費、木材の販売収入などを明示した上で、施業を提案する者を森林施業プランナーとして育成していくこととしているようですが、県担当者もその具体的な動きについては、今のところ把握していないとのこと。このような状況から、勝山市としてこれら制度への具体的な取り組み方針は未定であり、さらなる情報収集に努めてまいります。

○議長（松村治門君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） 若干、補充の質問をさせていただきたいと思っております。

まず、耐震補強工事について、小・中学校の耐震化工事についてですけれども、念のために国の補助延長の内容を確認させてください。

それともう一つ、このまま推移しますと前倒しということで、平成27年の間に工事の空白期間ができるのかなど。当初の計画では27年まで計画してあったはずなんですけれども、1年早くなるのか、それとも1年の途中で空白ができるのか、それを念のために2点、確認させていただきたいと思っております。

○議長（松村治門君） 蓬生教育総務課長。

（教育総務課長 蓬生慎治君 登壇）

○教育総務課長（蓬生慎治君） 国の前倒しの内容でございます。

平成22年度に地震防災対策特別措置法によりまして、公立学校施設の耐震化事業につきまして国庫補助率のかさ上げ措置というものを、現在3分の1でございましたものを2分の1まで、平成27年度末までに延長してございます。こちらの部分が国の変更になった部分でございます。

もう1点、前倒しによりまして空白期間ができるのかという御質問でございますが、工事の着工年度が1年ずつ早まります。国の補正予算で事業が認められるのであれば前倒しで対応していきますので、1年ずつ着工時期は早くなりますが、工事の完成時期につきましては27年度になるということになります。以上でございます。

○議長（松村治門君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） わかりました。

それでは、緊急雇用創出事業臨時特例基金については、まだ予算内容がはっきりしないということで、今後継続するかどうか、また、できるだけ必要なものは形が見えない形でも何とか雇用を継続していただきたいと思います。

次に、ジオパークの観光施策についてですけれども、ちょっとコンセプトという話ですと、すれ違いがあったようですけれども。例えば、電車で勝山市に来客した人が、その後、何で動くかと。徒歩で動くのか、自転車で動くのか、そこでレンタカーを借りるのか。レンタカーはありませんけれども、そういう形で勝山市内を1日で回るとなると、そう全部回ることにはできないだろうと。そのときに、現在のパンフレットでは、果たしてその人たちに有効な情報を与えられるのかなということ、まず私、そのコンセプトが必要かなというお話をさせていただきました。

ただ、その件は大体市長のお話で、今後改善されていくんだろうなとは思いますが、その中で周遊ルートの設定についてなんですけれども、基本的にジオパークはどうしても徒歩というのが基本だと私は考えます。そうすると、現在の勝山でその周遊ルート、ある程度遊歩道とも言えますけれども、例えば、ジオパーク間を結ぶ周遊の遊歩道というのはまだ整備し切っていないなど。例えば、今度体育館ができますけれども、恐竜博物館から浄土寺を結んで、それから長山に入って、長山から大師山を越えて平泉寺を結ぶルートと、現在、古い林道はあるみたいですが、そのあたりを新体育館の建設とともに整備する方法もあるんじゃないかなと思うんですけれども、そのあたりの周遊ルートの設定について、御意見がありましたら伺いたいと思います。

○議長（松村治門君） 水上未来創造課長。

（未来創造課長 水上実喜夫君 登壇）

○未来創造課長（水上実喜夫君） ただいまの再質問についてお答えいたします。

御提案がありました恐竜博物館から長山公園、そして平泉寺のほうへ至る、こういった山の中を通るルートには、確かに豊かな自然や長い歴史を誇る、今のルートで言えば、大師山などジオパークの要素が点在しております。勝山の人々と地質・地形遺産のかかわりや勝山の歴史を知る上で、とてもこういったものは魅力的なコース設定の一つであると考えております。

しかしながら、御指摘にもありましたとおり、現状では移動経路の状況が悪いこと、さらにはクマの出没の危険性があることなど、こういった山の中のルートにつきましては、安全確保の面で課題もございます。今後、ジオサイトの追加・拡充を図っていく中で、こういったルートを周遊ルートとして一つずつ位置づけられないか、それぞれの地域の皆様方とともに検討してまいりたいと考えております。

○議長（松村治門君） 5番。

（5番 帰山寿憲君 質問席登壇）

○5番（帰山寿憲君） それでは、最後に農林業施策ですけれども、森林フォレスター制度については、まだ詳細がはっきりしてないということで、今後も注視をしていきたいんですけれども。何とか勝山、非常に山の多いところですが、非常に小さい所有者が多いということも伺っております。今後とも、そういう森林・林業施策プランナーとか、そういうのを養成していただきたいと思いますので、ぜひとも今後の情報に注視していただきたいと思います。

また、農地・水のほうにつきましては、いわゆる平たん地では非常に有効な環境保全補助金でございますので、今後とも拡充、また勝山市の負担も大変大きいものではございますが、継続して続けていただきたいと思えます。

以上で質問を終わります。